



第26回 中学生大使派遣事業

フードリバー訪問記

2010.3.12 ~ 3.22

第26回中学生大使17人が、3月12日から11日間の日程で、姉妹都市の米国オレゴン州フードリバーを訪問してきました。生徒たちは国や言葉の違いを簡単に乗り越えて、はるか1万キロ離れた大地で友情をはぐくみ、多くの大切なことを学ぶとともに、忘れられないたくさんの思い出を作りました。今月号では、そのフードリバーでの様子と中学生大使の体験をご紹介します。

文化の違い



川村 奈瞳

わたしがフードリバーに行つて一番楽しかったことは、ホームステイでした。

わたしと日菜子さんが同じホームステイ先でした。ホームステイ先には、わたしと同じくらいの年のケイリーという女の子とダギーという男の子が住んでいました。ケイリーはとても元気でたくさん話しかけてくれました。ダギーはゲームがすごく上手で一緒にゲームをしてくれました。

わたしがホームステイをして実感したことは、日本との文化の違いです。まず驚いたのは、家が1階しかなくてとても広かったことです。次に家の中に入ってヒックリしたのは、家の中でも靴を履いていることです。あと、寝るときと着替えるとき以外は部屋のドアを開けっ放しにしていました。ケイリーの部屋のドアはいつでも開いていました。

今回の研修ではこのほかたくさんのお話を学んできました。この9日間は一生忘れることができないう大切な宝物です。



・マルトノマの滝で

フードリバーに行つて



工藤 飛明

僕はフードリバーに行つて心に残ったことが2つあります。

1つはサマータイムです。アメリカでは、春になると日照時間の差を利用してサマータイムという朝に時間を1時間早くするということが行われています。だから僕は朝に仕事や学校がある人は大変だなあと思いました。自分も体験したので、朝いつもより1時間早く行動しなければいけない感じがよく分かりました。

2つ目は、アメリカ人の好奇心と優しさです。ぼくが、歩いている人に目が合うとその人はニコッとほほえみを返してくれます。それに初めて会ったほくに、普通に日本のお話を聞いたりしてきます。その好奇心と優しさにアメリカ人はすごいと思います。



・ホームステイ先で家族一緒に

このほかに体験したことがたくさんあり、とても心に残る素晴らしい研修になりました。

英会話に苦労しました



奈良 華月

わたしは今回のフッドリバー研修で驚いたことや学んだことがたくさんありました。その中でも一番驚いたことは中学校です。生徒の中には、髪がピンク色の人やピアスをたくさん付けている人がいました。教室では個人の机はなく、大きなテーブルを4、5人で使っていました。また、授業中に食事をしている人もいました。アメリカは本当に自由な国だなと思いました。

昼食は給食ではなく、学食に生徒が集まって食べていました。少しうらやましかったです。

わたしが研修で苦労したのはやはり英会話です。最初のころホストファミリーに話しかけられても「イエス」、「ノー」しか言えませんでした。でも、一緒に過ごしていくうちに、わたしから話しかけることができるようになりました。なかなかわたしの英語は理解してもらえなかったけど、ジェスチャーなどを交えて伝えることができたときは本当に嬉しかったです。



・ホームステイ先の家族と一緒に

研修を終えて



越前谷 萌

フッドリバーに着いたとき、わたしは英語がちゃんと相手の人に伝わるかとても不安でした。でも、ホストファミリーの人たちと過ごしているうちにそんな不安はなくなりました。なぜなら言葉が通じなくてもジェスチャーで意味が通じたからです。

次にわたしが体験した中で一番楽しかったことがあります。それは、わたしのホストスチューデントのアリシンの学校へ行ったときのことです。アリシンの友だちのメガネをかけた少し背

の高い女の子と一緒に授業を受けていたら、その子はとてもテンションが高くおもしろくて、わたしたちを心から笑わせてくれました。あまりにもおもしろくて笑わせてくれるので「クレイジーガール」というあだ名を付けてしまいました。



・訪問先の学校で友だちと

このほかに良い思い出がたくさんでき、すばらしい体験になりました。

フッドリバーに行つて



三上 杏実

期待に胸を膨らませて日本を旅立ち、小雨の中アメリカフッドリバーの地に到着しました。ホストファミリーと過ごす2日目の日曜日、ホストファミリーにキャスリンクリークという公園のようなところに連れて行ってもらいました。そこには同じホストファミリーの家族も来ていて、同じ鶴中生の2人に会い少し気が楽になりました。

キャスリンクリークでは一家族で散策を楽しみました。大きな山と小さな川には生まれた風景は外国特有の広大な雰囲気、今でも目に焼き付いています。

つたない英語で少しの会話でも理解するのに時間が掛かりますが、楽しい気持ちには笑顔があれど分かり合えると思えました。



・航空博物館で友だちと

文化の違い、言語の違いなどたくさん違いで悩んで研修中に外国が嫌になったときもありました。英語が通じたときの嬉しさは最高でした。

日本に帰って数か月経ちますが、今になってもう一度フッドリバーに行きたいと思っています。



①

- ①到着後、フッドリバーの皆さんの前で英語でスピーチをする成田君
- ②ホストファミリーの方との初対面
- ③ルイス&クラーク大学では木立随学先生が渡米してきたころの話をしてくれた
- ④木立随学先生へお礼の贈り物を渡す佐々木さん
- ⑤最初に行ったマルトノマの滝で記念撮影



②



⑤



③



④



②



⑤



③



⑥



④



①

- ①市内の高台から北方向をみた風景。奥に見える山はマウントアダム
- ②学校では名前を漢字にしてあげるのが大好評
- ③小学校の体育館でローラースケートを楽しみました
- ④女子生徒たちはすぐに意気投合。会話が弾みます
- ⑤学校のランチで本場のアメリカンドッグをパクリ
- ⑥レストランではピザの大きさにビックリしました

温かったファミリー



藤田 有里彩

わたしはホストファミリーと過ごした時間が一番楽しかったです。

ホストファミリーのスコットさん、シンディーさん、ベイリー、ブレントはとても優しく気を遣ってくれました。ペットのフランクと遊んだことも忘れられません。わたしはホストファミリーと明るく積極的にコミュニケーションを取ることを心掛けていました。自分の家族の写真を見せて説明したり、おみやげの風呂敷を渡したときはすごく喜んでくれました。ホストファミリーは、教会や博物館、市内を見渡せる場所など色々な場所へ連れて行ってくれました。英語が通じないときなどは、日本語を調べてくれました。

わたしは、住んでいる国は違っても、家族の温かさは変わらないと感じました。

今でも毎日ホストファミリーのことを思い出します。また会いたい！

貴重な体験



一戸 舞祐

わたしはフッドリバーに訪問し、とても貴重な体験をしたと思っています。ルイス&クラーク大学の見学



・ホームステイ先のお母さんと

ホームステイ先での生活など、たくさんありますが、中でも特に心に残っている学校のことを紹介します。

わたしたちが行った最初の学校は「ミドルスクール」です。その学校は生徒が案内してくれました。授業の時間は席が自由、チャイムがないなど驚きの連続でした。教室を移動するとき、すれ違う人たちからとてもフレンドリーに話しかけられたことがとても嬉しく心に残っています。

次に行った学校は、わたしたちがお世話になっているホストファミリーが通う学校でした。基本的にはミドルスクールと変わりませんが、授業中におやつを食べていました。授業の内容は数学しか分かりませんでしたが、日本よりもかなり進んでいました。

フッドリバーでの貴重な体験を生かし、これからの生活に役立てていきたいと思っています。

フッドリバーの学校で



駒井 滯

わたしの思い出は中学校訪問です。2つの中学校に行っただけで、特に楽しかったのはホームステイ先の中学生が通っている学校です。

アメリカの中学校は日本と違う所がたくさんあります。アメリカでは授業ごとに教室が決められています。その移動のときにわたしに「コンチハー」と日本語で声をかけてくれる人がいました。個人のロッカーがあったり、学校のチャイムは、日本と違って火事するときなどの「ジリリリ」となるもので、初め聞いたときはビックリしました。学校では、日本語（漢字）で名前を書いてあげると、とても喜ばれました。また日本語のあいさつや言葉を教えてあげると、すぐに使ってくれたりしました。特に「こんにちはー」が大変好評でした。



・訪問先の学校で

アメリカの人たちは目が合うだけで話しかけてくれるので、日本でもこうだったらいいなと思いました。いろいろな体験ができて、本当によかったです。

・マルトノマの滝で



フッドリバーでホストファミリーの方々を前に、英語で感謝の言葉を述べた初日。初めての海外、初めての風景、初めて会うホストファミリーに心躍らせ、長いようで短かったフッドリバーの日々が始まりました。

ホストファミリーの皆さんは僕たちに気を遣ってくれて、ゆっくりと話してくれていて、最初のころはその意味を理解しようと必死でした。答えられるものは「イエス」か「ノー」で答えられるものだけでした。

ホストファミリーの家に着き、少し時間が経つと夕食でした。口に合わないというものはありませんでしたが、とても量が多く、食べきるまで時間がかかりました。

毎日ホストファミリーと会話していたので、今まで答えられなかった会話がだんだん答えられるようになります。とても嬉しく思いました。

歓迎してくれたホストファミリーに、心から感謝しています。

ホストファミリーに感謝



成田 直矢

「デカッ」
そう、わたしはアメリカに行っ
て一番驚いたのはサイズの大きいです。どこの店に行っても日本の倍あります。しかも超おいしいのです。

心に残っていること何と云っても「ホームステイ」です。思い出すとさまざまなことがありました。ファミリーの時間のあるときは、庭の遊具で遊ばせてくれたり、テレビゲームをやらせてくれたり、会話が上手いかない時には、英文を紙に書いて、ゆっくり説明してくれたりと本当にお世話になりました。

訪問中、ホームステイ先の人だけでなく、フッドリバーの誰もがわたしたちに優しく接してくれました。帰るころ、わたしは「感謝」という二文字で胸がいっぱいになり、心の中では感激の涙があふれていました。

フッドリバーでの生活はものすごく幸せな時間でした。また行きたいです。アメリカ最高！

アメリカ最高!!



小山内 裕美



・ホームステイ先の庭で

わたしのホームステイ9日間はとても良い体験になりました。

まず、ホストファミリーの方々はもちろん、学校の生徒たちもみんな笑顔で接してくれたことはすごく嬉しかったです。

そして、いつも一緒にいてくれたブロッキーとは、最初会話が続きませんでした。少しずつ聞き取れるようになり、自分で言いたいことも言えるようになりました。部屋の中で3人で秘密の会話をしたり、犬のDJがわたしたちの部屋に糞をしたことなど、家で過ごした時間は大変楽しいものでした。

このようにわたしが楽しく過ごせたのは、ブロッキーがアメリカの珍しいものをたくさん紹介してくれたり、わたしが興味を持つような話をしてくれたので、学校でもショッピングでも問題なく最高の時間を送ることができたのだと思います。

今回わたしは、とても貴重な体験をしました。出会った人全てに心から感謝しています。

フッドリバーでの思い出



佐々木 黎子



・訪問先の学校で

①レイ・ヤスイ氏を偲び、墓前で一堂合掌

②晴天に恵まれたマウントフッドでのスキー

③フッドリバーの消防車

④消防署の方からキャップをプレゼントしてもらい男子全員ファイヤーマンに

⑤小学校では先生役になって子どもたちに日本語を教えました

⑥移動は映画に出てくるような黄色いスクールバス



②



①



④



③



⑤

- ①訪問先の小学校では校長先生がみんなを和ませてくれました
- ②エコ・タダクマ氏のお墓参り。ここで一堂合掌
- ③ツーショットでちょっと照れながらの記念植樹
- ④今年フドリバー市姉妹都市委員会会長になったニコウ・ヤスイさん（右）と奥様
- ⑤左からアダム・ラビエールさん、アーサー・バビッツ市長、トシコ・カーロスさん

フドリバーに行って食生活の違いや英会話を学べたこと、たくさんの人たちと仲良くなれたことを自分の宝物にしたいと思えます。

食生活は日本と違って、朝はシリアルだけで軽く済ませて、昼はファーストフードで、夜は分厚いステーキなどの量が多い食事でした。学校の給食も量が多かったです。

僕のフドリバーでのホストファミリーは、とても優しく明るい人たちでした。長男のライリーと次男のベンとその友だちのダラスとライアンとはすぐに仲良くなり、バスケットボールやトランポリンなどで遊んでくれました。お父さんのダンは僕たちにたくさんプレゼントをしてくれました。お母さんのジーナはおいしいものを毎日たくさん作ってくれました。また、学校ではライリーがたたくさんの友人を紹介してくれました。



・ホームステイ先の子どもたちと

食生活が違います



鈴木 太良

笑顔で迎え入れたいと思います。

次回、ホストメイトが鶴田町に来た時には、

わたしがこの研修で心に残っていることは、いろいろな所に行ったことです。中でもホストファミリーが通っている中学校訪問が心に残っていて、授業で数学や歴史、スペイン語などを学びました。わたしのホストメイトにはたくさん友人がいて、彼女の周りには、いつもおもしろい人が集まっています。おかげでわたしもたくさんの人と友人になることができ嬉しかったです。わたしの方からはそろばんを教えたり、漢字を教えたりして、特にそろばんにはとても興味を持ってくれて、教えがいがありました。授業ではパソコンを使う授業が多くて、電子機器の需要が多いことがわかりました。

みんな男女の分け隔てなく接していて、とても仲良くしていました。とても自由でいいなと思いました。全てが自己責任なのでたいへんだなとも思いました。

9日間のアメリカでの生活で、書ききれないほどの思い出ができました。その中でも深く印象に残っていることは、フドリバー市民の皆さんの優しさです。今回の訪問は皆さんの優しさで協力しなければできないことでした。アメリカという地に初めて立つて、右も左も分からなかった僕にとても優しく接してくれました。

心に残った学校訪問



川村 日菜子

今度は夏にフドリバーから鶴田に訪問団が来るそうなので、僕たちがお世話になった以上に、優しく明るく迎えてほしいと思います。

9日間楽しく充実して過ごせたのは、フドリバー市民の皆さんのおかげだと心から感謝の気持ちでいっぱいです。

ホームステイ先に帰るとホストファミリーの皆さんが笑顔で迎えてくれて、僕のかたことの英語もきちんと聞いてくれました。

9日間のアメリカでの生活で、書ききれないほどの思い出ができました。その中でも深く印象に残っていることは、フドリバー市民の皆さんの優しさです。今回の訪問は皆さんの優しさで協力しなければできないことでした。アメリカという地に初めて立つて、右も左も分からなかった僕にとても優しく接してくれました。



・ホームステイ先の家族全員で

市民の皆さんありがとう



木村 夏貴

English is important



野宮 奈々子

わたしはこの研修で、言葉が通じないということを悩んでいました。アメリカに行く前までは意外に普通に話せるだろうと簡単に思っていました。しかし実際はそんなに甘くはありませんでした。

ホストファミリーとの会話は「イエス」か「ノー」など簡単なものもありましたが、話が長いと何を言っているのか全然分かりませんでした。でも日に日に少しずつ英語に慣れてきて話ができるようになっていきました。そのときは「英語が言える！」と実感して、自分の中でとても喜んでいました。

わたしはこの研修から聞き取りや相手の言葉の対応の仕方などさまざまなことを学ぶことができたと思います。この経験を今後の学校生活で生かしていきたいと思えます。

『英語は重要』だということを改めて思い知った研修でした。

・訪問先の学校で



フッドリバーに行くと



瓜田 光佑

この研修で学んだことは、自分から話すことの大切さです。ホストマザーなどの会話で、話したいことがあっても、うまく自分から話せないときがあつて、とても損した気持ちになりました。そんなことがあつてから、自ら話すことの大切さを知るようになりました。

僕のホームステイした家は5人家族で、父親のダン、母親のジーナ、姉のケイラ、兄のライリー、弟のベンでした。みんな仲が良くとても楽しい家族でした。ホストファミリーのおかげで毎日充実したときを過ごすことができました。このファミリーに出会えて本当に良かったと思います。



・ホームステイ先の家族と友人

フッドリバーではたくさん出会いがあり、さまざまなことを学びました。この研修は自分を大きく成長させてくれたと思っています。

初めてのアイススケート



下山 紗季



・訪問中に誕生日を迎え、バースデイケーキをプレゼントされるサプライズ

わたしがフッドリバーに行つて一番に残っていることは、ホストファミリーの方々と一緒にアイススケートをやったことです。アイススケートをやったことがなかったので、できるかな?ととても不安でした。

最初にスケート用の靴を履きました。でも、わたしは紐の結び方が分からなかったのでホストファミリーのお母さんに結んでもらいました。滑ってみると、いくら足を動かしても前に進まないし、バランスを崩すとすぐ転んでしまつて最初は楽しくありませんでした。しばらくして、ホストステューデントのブロックが優しく上手に教えてくれたので、最後にはスピードをつけて自由に滑ることができました。自由に滑っているときはとても嬉しかったし、楽しかったです。

機会があつたらまたフッドリバーに行きたいです!

自分の宝物として



引率教諭
花田 圭

事前研修のころから生徒のフッドリバー研修に対する意欲はすばらしいものでありました。意欲的な態度で研修に参加し、ALTやCIRの先生方とのコミュニケーションも活発で、「今回のフッドリバー研修は大成功するな」と、渡米する前から確信していました。『大成功』とは、『フッドリバーでしか経験できないこと、学べないことを最大限吸収してくれること』です。現地に行つて初めて学ぶよりも、その前の段階で、どれだけ準備ができていたのか勝負です。授業に例えるなら予習です。今回はしっかりとした予習ができていました。

フッドリバーで体験できたことは、生徒一人一人の宝物で、その宝物を少しでもいいので、今回参加できなかった友人たちに分けてほしいと思っています。それが今回参加した生徒の役割だとも思っています。

最後に、嬉しかったことを一つ述べます。それは中学校訪問で、「日本の中学生が廊下のごみを拾ってくれていました。」とフッドリバーの先生に言われたことです。日本では当たり前に行っていた行為が、感動とともにわたしに伝えられました。

今回の研修生徒を心から誇りに思います。

People of Hood River, Thank you!



フッドリバー市民の皆さん ありがとうございます



・訪問団とホストファミリーの皆さん